

# 名南病院の 身体にやさしく、痛みの少ない最新手術

！安全で精密な手術！

発行日：2011. 9.10

発行：名南病院手術室

No 12

きゅうせいちゅうすいえん

## 急性虫垂炎 : No 2

### 急性虫垂炎の診断は？

急性虫垂炎の診断では、まず、触診と血液検査が行なわれます。必要に応じ、腹部超音波検査、CTスキャンなどで検査します。

しかし、急性虫垂炎の検査では、虫垂炎だけに特有な症状や検査所見があまりにないので、正確な診断は難しい事もあります。右下腹部での腹痛は虫垂炎の他にも数多くあるためです。

#### 触診

典型的症状として、右下腹部を圧迫すると痛みを感じます。

腹部を圧迫してから、急に手を離すと、反跳痛と呼ばれる痛みを感じるなら、腹膜炎を起こしている可能性が大となります。



#### 血液検査

血液検査で虫垂炎の特異的な所見はありません。

しかし、発症から12時間ほど経過すると、血液中の白血球数が増加するので、血液中の白血球数検査が診断の有力な指標となります。また、炎症反応(CRP)が上昇し陽性となるのでこれも証拠となります。

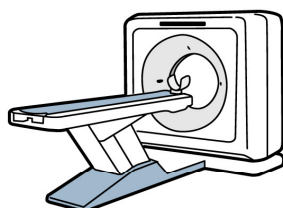


#### 腹部超音波検査

超音波検査で肥大した虫垂の画像が表示されれば、他の所見と合わせて診断が確定されますが、あまり感度は高くありません。

#### CTスキャン

CTスキャンで肥大した虫垂の画像が表示されれば、他の所見と合わせて診断は確定されます。

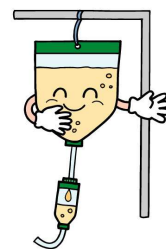


## 急性虫垂炎の治療方法は？

急性虫垂炎の治療には、炎症が軽度な場合には抗菌薬が使われることがありますが、進行したものは手術が不可欠となります。

### 抗菌薬投与

絶食、輸液管理、抗菌薬投与



### 虫垂切除術

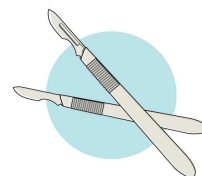
抗菌薬投与では治療できない場合には「虫垂切除術」がおこなわれます。虫垂炎では、手術は確実な治療法ですが、手術を行なうべきかの判断は、



- ・症状が強く穿孔が疑われる場合
- ・炎症所見が強く、穿孔の恐れがある場合
- ・虫垂内に糞石があり糞石を除去しないと炎症改善が困難な場合
- ・幼児で進行が急速で穿孔しやすい場合
- ・妊婦で、万一穿孔して胎児への悪影響が懸念される場合

以前の手術では、脊椎麻酔（下半身麻酔）や幼児の場合は全身麻酔のもとで、右下腹部を数cm切開して、小さな切り口から虫垂を引出して切除していました。

最近では腹腔鏡下手術が発達し虫垂切除も腹腔鏡下で行なわれるようになりました。（**当院も腹腔鏡下手術が主流です。**）腹腔鏡下手術は全身麻酔下でお腹にガスを注入膨らませ気腹させ、臍を1cmほど切開しそこからカメラを挿入、下腹部に5mmほどの穴を数カ所開け手術機材を挿入し虫垂を切除します。



## 入院期間はどの位？

腹膜炎がなく、手術後24時間以内におならが出れば、翌日から食事が開始となります。数日間点滴と抗生剤の投与で完治しますので、1週間程の入院となります。

しかし、腹膜炎を併発した場合には、しばらく食事は出来ず、点滴や抗生剤の投与、及び長期の入院が必要となります。



次回は、当院で行っている「腹腔鏡下胆嚢摘出術」についての説明です。お楽しみに！